

2020年度事業計画書

自：2020年4月1日 至：2021年3月31日

1. 学会運営

(1) 学会運営基本方針

以下の運営基本方針を継続する。

- ① 世界をリードする実装技術のけん引役としての活動
- ② 幅広い技術領域をカバーしていることを活かし展開
- ③ 将来を担う若い実装技術者の育成と魅力ある活動の場の提供

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、世界的にリーマンショックを超える景気減退、更に終息についても見通す事のできない状況にあり、学会イベントも、3月の春季講演大会、ICEP2020の中止、各研究会の自粛という非常に厳しいスタートとなる。一方、2020年4月から本格的に5G通信が開始され社会全体が大きく変革を遂げる時がきた。今回の新型コロナウイルス感染という人類社会にとって、大きな環境変化を、新しいアイデア、新しい概念、新しい考え方を取り入れ、次世代実装関連のイノベーションを起こす活動のきっかけとして更に推進し、社会、産業界へ貢献していく事にする。また、今年度は、この難局を乗り越えるべく学会一丸となり学会の運営方法を見直し、継続的に活動が実施できる体制・環境を作り上げる。

(2) 総務委員会

持続可能な学会運営を行うための事務局業務について、業務内容を分類、整理し、共通業務の統合を実施する。また、今後作業リスク分散の為にテレワークの実現、更なるIT化、システム化を実現する事により、作業効率の向上を実現していく。また、今後の学会運営拡大に備えWEBでの各種イベントの開催実現に向けて環境整備を図る。

(3) 財務委員会

今年度の予算については、新型コロナウイルス感染による、大幅な収入の減少が見込まれるので、これまで実施してきた内容についてすべて洗い直し、費用効率の観点から見直し実施する。3月の理事会で承認を受けた費用改善内容の実現、更なる改善を実施し、何としても今年度を乗り切る。強固な財務基盤を確立していくというこれまでの目標は変わらずに、この厳しい状況をまずは乗り切ることに注力していく。

(4) 広報委員会

学会からの情報発信を、公共向け、会員向けを更に強化していく。他学会との連携も視野に入れ、より多くの社会の認知度向上及び会員への情報サービス向上を図り、会員増強、イベント集客につなげていく。また、現在のイベントが東京、大阪をメインで開催されているので、今後WEB配信等を実施し、地方、遠隔の会員がより参加可能な仕組みを構築していく。

(5) 会員増強委員会

大会事業、展示会運営委員会、技術調査事業、教育事業、支部事業の各イベント開催を通じて、会員増強活動、新規入会優遇キャンペーンを継続的に実施する。東京から地方遠隔地会員増強の為の仕組み（WEB配信等）を立ち上げ会員増強につなげていく。

(6) ミッションフェロー活動

設立7ヶ年を経て、講演大会およびMESにおけるミッションフェローセッションが定着してきた。更なる学会活性化に向け、イベント企画、知名度向上に努めていく。更に今年度も理事含めた合宿討議を実施し、今後の学会活性化、会員増強にむけて、イベント企画を検討していく。

(7) JPCAとの連携

JPCAとJIEPは車の両輪のごとく、極めて重要なパートナーである。JPCA Showを起点にお互いの強みを生かし、発展、成長していく。更に、JPCA会員への学会で実施している教育事業、公開研究会等を積極的に活用して頂く様にJIEP会員での参加を呼び掛ける。

(8) アドバイザリボード

学会理事監事経験者を中心としたアドバイザリボードメンバーを委嘱し、継続的に、学会運営に対して助言と貢献をお願いする。アドバイザリボードの方々に関係会社、関係団体に直接学会活動をアピールして頂き、賛助会員の獲得をお願いしていく。

2. 大会事業活動（定款第4条第1号関係）

春季講演大会、秋季大会マイクロエレクトロニクスシンポジウム（MES）、国際会議 ICEP、ワークショップを実施する。これらのイベントへの参加者および発表者の増加を図るため、新分野のセッション企画などを強化するとともに、収支改善のため運営の合理化を進める。さらに、各行事の将来の方向性、運営の充実を図るための仕組みづくりを考えていく。

- (1) 「国際会議 ICEP2020」が、新型コロナウイルス感染の影響で中止になった。ICEP-IAAC2021の実現に向けて、各関係部門と協力し企画立案を実施する。
- (2) 「第30回秋季大会マイクロエレクトロニクスシンポジウム」を2020.9.17～18に大阪府立大学 中百舌鳥キャンパスで開催する。実装分野の企業・大学・公共研究機関の最新の研究・開発の成果発表と情報交換の場を提供する。スマートプロセス学会と連携する。特別講演には、クアルコムジャパン合同会社 代表社長須永順子様「5Gが社会にもたらすインパクト」元ANA 客室乗務員 大宅邦子様「誰もが心地よく活躍できる組織」が決定した。また、各種のオーガナイズドセッションなど充実を図る。
- (3) 2020ワークショップを2020年11月5日～6日にラフォーレ修善寺で第30回の記念WSを計画しているが、新型コロナウイルスの感染予防を考慮し、WEBの活用も併せて検討。実装技術、関連技術について、発表者と参加者と双方向のディスカッションにより理解を深めることができるイベントとして提供する
- (4) 「第35回春季講演大会」を2021.3.17-19に青山学院大学・相模原キャンパスで開催する。実装分野の企業・大学・公共研究機関の最新技術開発の発表と情報交換の場を提供する。ものづくり技術の紹介により企業からの発表者、参加者を増やすとともに、チュートリアルセッションにより若手研究者の参加者増も図り、活性化、収益増を目指す。更に今回は、応用物理学会との合同開催という事で、新たな試みとして実施する。合同開催という強みを生かし、多くの新規参加者の獲得を目指す。

3. 展示会運営委員会活動（定款第4条第1号関係）

JPCA Show と同時開催するマイクロエレクトロニクスショーの展示企画として、最先端実装技術シンポジウム、アカデミックプラザ、及び、eX-tech を実施するという事で準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染の影響で中止になった。2021年開催に向けて準備を実施する。

4. 技術調査事業活動（定款第4条第2号関係）

学会の基盤活動である技術委員会および研究会の活動を強化・活性化するためにも改組も含めて検討する。前年に引き続き、技術委員会・研究会活動について、学会内外に発信し、研究会相互の連携促進、研究会外、学会外との交流による活動活性化を図る。更に2020年度は、5Gが本格的に稼働するという事で、社会全体が、AI, IoTが現実化してきている中、益々実装に求められてくるものが大きくなってきている。「Society5.0」を実現するために

「Jisso5.0」の概念を掲げ関連する研究開発を推進していく。WEBを活用した情報配信を検討し、どのような状況においても最先端の情報を発信できる環境を整備していく。

(1) 技術委員会の活動

12の技術委員会を組織し、実装技術分野の技術動向を調査し、それらの成果をまとめて、学会誌特集号に掲載する。また、大会事業や展示会事業に委員を派遣し、各イベントの企画運営を支援する。

(2) 研究会の活動

現行の26研究会にて、エレクトロニクス実装技術領域の変化に対応する。基礎要素から応用までの幅広い実装関連テーマについて、委員相互の技術情報交換、情報共有の場を提供する。

(3) 技術調査事業活動成果の普及

技術委員会および研究会の活動で得られた成果については、公開研究会や学会誌などで広く公開する。

(4) 情報提供方法について

これまで、参加型の公開研究会を、今後WEB配信を含めた形で実施していく。

同じ場所に集まり情報交換をする形とともに、遠隔地から、また都合の良い時間に情報を共有できる方法を実現させる。

5. 教育事業活動（定款第4条第3号関係）

将来を担う実装技術者、若手技術者を育成するためにきわめて重要であり、学会の果たすべき重要な役割である。5Gの本格稼働、IoTのAIと実装環境も大きく変化を遂げてきている中、会員のニーズに対応した新企画の検討を実施していく。

(1) 教育講座

実装分野の研究開発者の育成に寄与するため「新PWB製造初級講座」（2020.8月）と「実装技術総合基礎講座」（2020.11月）を継続実施する。

(2) 教育セミナー

例年どおり、注目されている実装技術のテーマを平易に解説する「実装」セミナーと、実装だけではなく、実装環境を取り巻く様々な問題を解説するセミナーも実施して行きたいと考えている。年2回の実施を計画する。

(3) 実習付き教育講座

実習付き教育講座については、演習時間を充実確保するなどカリキュラムを工夫して、継続実施する。また、テーマについても、「伝熱解析」に限らず幅広く展開できる可能性もあるので、ニーズに応じて柔軟に検討する。

6. 会誌発行委員会活動（定款第4条第4号関係）

学会活動のアウトプットとして重要であり、例年通り学会誌を7回、英文論文誌を1回発行する。今年度は、学会誌の論文の早期公開、電子化について実施する。会員へのサービスが低下せず、電子化を進めることで、カラーデータの提供、タイムリーな情報展開を実現していく。英文論文誌は、海外への情報発信を強化継続するため、電子閲覧での一般公開を継続するとともに、英文誌発行に先立ち、論文毎に準備ができ次第公開することとし、査読完了から公開までの期間短縮を図る。

(1) エレクトロニクス実装学会誌の発行

例年通り、機関誌「エレクトロニクス実装学会誌」を7回発行する。研究開発活動の成果として研究論文、総合論文、速報論文、解説等を掲載し、実装技術に関する最新情報を会員

に提供する。学会主催の大会行事で、発表した論文に対し、積極的に学会誌への掲載を勧誘する等論文数の減少に歯止めを掛けていきたい。また、理事会はじめ学会活動状況についても広報する。

(2) 英文論文誌の発行

本学会の国際的な認知とプレゼンスの向上を図るため、引き続き、英文論文誌 (Transactions of The Japan Institute of Electronics Packaging Vol.9) を発行する。電子閲覧を基本とし、学会ホームページ及び J-STAGE (科学技術振興機構の総合電子ジャーナルプラットフォーム) から一般閲覧できるようにして、海外への情報発信を活性化する。

(3) 日経テクノロジーオンサイトへの抜粋版掲載

日経テクノロジーオンサイトへの抜粋版掲載を継続する。海外への情報発信と技術普及を促進する。

(4) 収支改善

会誌発行事業の収支改善に向けた対策も急務である。紙媒体への広告掲載が期待できない中、電子媒体での広告等を強化する方法の検討を実施し、新たな収入元を確保していく。また、各経費については、費用削減と効率化を進める。

7. 国際事業活動 (定款第 4 条第 5 号関係)

国際会議 ICEP を機軸に、IEEE EPS Japan Chapter, IMAPS との連携を継続する。また、パンパシフィック SMTA との情報交換も行い、日本で開催される国際学会との連携も含めて、関係強化を図っていく。これまで同様、IAAC (IMAPS All Asia Conference) を通じて、台湾、韓国との関係強化を進める。さらに、ASEAN 地域における学会活動拡大を念頭に、日系法人を中心にセミナー協力、技術情報提供など会員獲得を始める。

(1) 国際会議 ICEP2020 に係る IEEE EPS Japan Chapter, IMAPS との連携

今年度は ICEP2020 が中止になったが、今後の為に IEEE EPS Japan Chapter, IMAPS と、MOU 締結の手続きを行う。

(2) 国際事業新体制

ICEP 開催に関して、ICEP Steering Committee を開催し、3 年先を見据えた体制を構築する。また、他の日本で開催される国際学会との連携も含めて、新たな仕組みを構築する。

(3) ASEAN 地域における学会活動展開

ベトナムなど ASEAN 地域における学会活動拡大を図る。日系法人を中心に会員獲得を進めるとともに、セミナー協力、技術情報提供など現地活動への協力を行う。昨年に引き続きベトナムで開催される IWMS に参加し連携を強化していく。

8. 支部事業活動 (定款第 4 条第 6 号関係)

支部の主体性を尊重しつつ、活動を推進していく。関西支部は前年と同様に、若手研究者セミナー、技術講演会、実装フェスタ関西 (旧関西ワークショップ)、「ぷらっと関西」を開催する。九州支部の独自イベントとして、技術講演会と若手研究会セミナーを企画して支部会員の情報交流の場を提供するとともに、産業界・大学と連携する活動を行う。北海道・東北支部は、会員増強のために、支部としての活動強化、共催セミナーを通じて積極的な学会の PR 活動を行い、拡大を目指す。

(1) 関西支部の活動計画

実装フェスタ関西(2021年1月開催予定)、若手研究会セミナー(2020年10月開催予定)、技術講演会(2021年3月開催予定)のイベントを、引き続き実施する。実装フェスタ関西は前回同様、経験豊かな先輩を囲んでのナイトセッション等を企画し、参加者の増員を図る。但し、実施時期については、新型コロナウイルス感染の影響でいまだ流動的な状況にある。

(2) 九州支部の活動計画

九州支部の独自イベントとして、技術講演会と若手研究会セミナーを企画して支部会員の情報交流の場を提供するとともに、産業界・大学と連携する活動を行う。

(3) 東北・北海道地支部の活動計画

東北・北海道地区の会員増強のために、昨年度、北海道東北支部を発足したので、宮城県との共催セミナーの実施、更に技術運営委員会と共催し東北北海道地区でセミナーを実施する事で、積極的な学会のPR活動等を行う。

9. 表彰委員会活動(定款第4条第6号関係)

学会活動の活性化と研究開発者のモチベーションの向上のため、例年通り、エレクトロニクス実装に関する学術の発展および学会活動に対して功績のあった方に学会賞、功績賞、技術賞、論文賞、功労賞、およびマイスター賞を贈呈する。大会事業、秋季大会MESについても、例年通り優秀発表者を表彰する。講演大会、ICEPは大会中止により、表彰選考はなくなった。